

News Letter 01

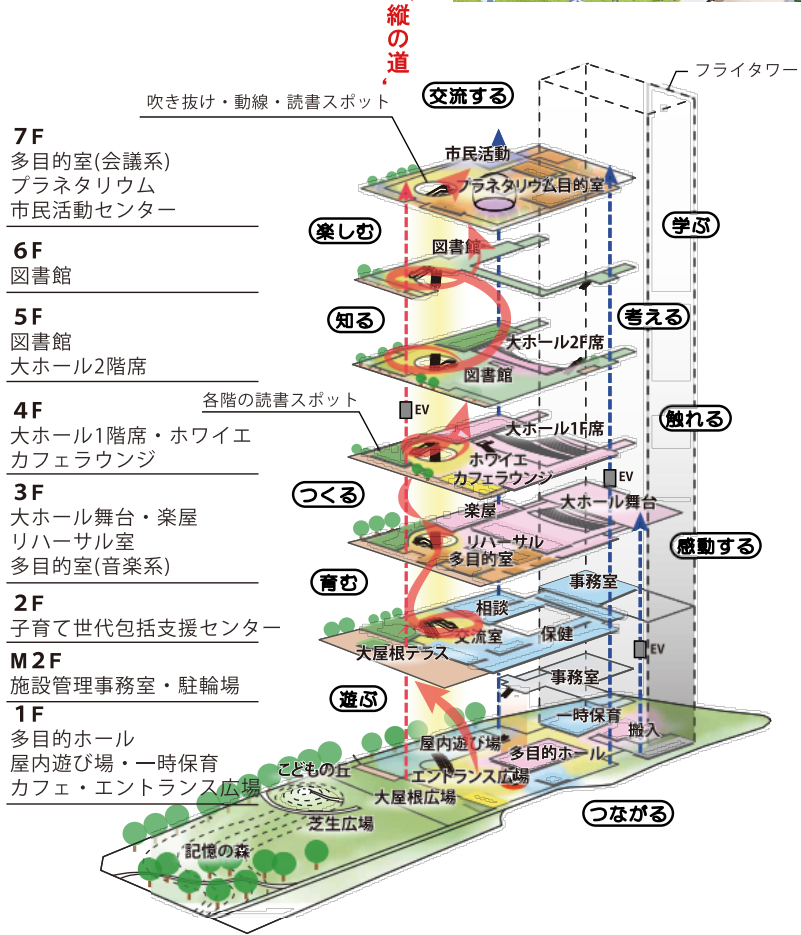
第1回 7/26 (日曜日) 13:30~16:00

新施設と広場をつくるワークショップ

新施設と広場の設計案の説明

ランドスケープと建築が相互に浸透し合う立体的な公園のような場。各階の機能を縦につなぐ「縦の道」を中心に様々なプログラムが溶け合います。

1階には広場や開閉可能な多目的ホールなどがあり、開放的な空間が広がります。2階は子どもの行動に合わせた変化にとんだ空間を、3階はリハーサル室などクリエイティブな交流の場に。4階は市民が使いやすいホール、5～6階には各階の機能をつなぐ図書館が入り、緑に囲まれた最上階（7階）は開放感があり、市民のみなさんの様々な交流を促します。



令和5年度の竣工を目指して設計を進めている広場と新施設について、市民のみなさんと一緒につくっていくワークショップがはじまりました。自分たちの活動をおひろめしたい、広場や新施設で何かやってみたい、新しい出会いや発見がある場所にしたい、用事がなくてもちょっと行ってみたいくなる場所にしたい、そんな市民のみなさんの想いをかたちにしていく場です。

初回となった今回は、30名ほどの市民のみなさんが参加し、新施設や広場の設計プランについて説明を聞き、国内外の施設の事例を学びました。

その後はスマホを使って意見交換。写真を使いながら自己紹介をしたり、お気に入りの過ごし方について意見交換をしました。

将来、広場と新施設を使う市民のみなさんと一緒に、楽しく過ごせる広場や新施設をつくっていきます。

プログラム

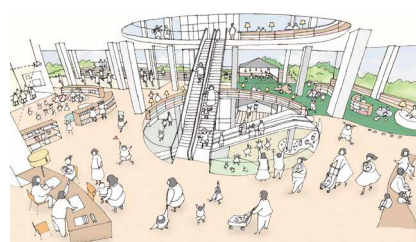
- ・市民会館跡地エリア整備プロジェクトの概要
- ・設計案の説明（竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同企業体）
- ・レクチャー～海外の施設を知ろう～（studio-L代表山崎亮）
- ・写真を使った自己紹介
- ・意見交換 01～お気に入りの過ごし方～
- ・意見交換 02～新施設や広場のどこで過ごす？～

プロジェクトの概要

昭和44年の開館以来、市民のみなさんから活用され続けてきた茨木市市民会館は、耐久性などの様々な課題により、借しまれながら平成27年12月に閉館しました。茨木市役所の前、JR茨木駅・阪急茨木市駅のほぼ中央に位置し、まさに「茨木市の中心地」といえる立地です。「施設を建て替える」だけでなく、広い視点で茨木市のまちづくりを考えながら、この場所に何が 필요한のかを市民のみなさんとともに話し合いを重ねてきました。



プロジェクトについては「市民会館100人会議」や市民アンケートなどを経て、キーコンセプト「育てる広場」が生まれました。行政だけでつくるのではなく、市民自らが育てていき、完成後は市民のみなさんが活用する場、行政と市民がともに責任を持てる場となるよう、「芝生広場をつくってみんなで使ってみる社会実験」も行いながら、跡地エリアの活用を考えてきました。設計施工事業者は竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同企業体に決められました。実際に新施設や広場を使う市民のみなさんと一緒に話し合いを進めながら、新施設や広場の設計、また完成後の運営にも反映していきます。設計に関するワークショップの運営はstudio-Lが支援することになりました。



発行・問合せ先

茨木市 企画財政部 市民会館跡地活用推進課

TEL 072-655-2757 E-mail atochi@city.ibaraki.lg.jp

事業に関する詳しい情報は茨木市のホームページからもご覧いただけます。



次なる茨木へ。
茨木には、次がある。

レクチャー

事例1 信濃毎日新聞社屋

民間の新聞社ですが、社屋を地域に活用してもらいたいという新聞社の想いから実現したプロジェクト。5年後の新聞の日付で、市民の活動の未来新聞をつくるワークショップを開催。

このプロジェクトと同様、伊東豊雄建築設計事務所が設計を担当しており、市民の声を聞き反映しながら設計図面に落としつけていきました。完成後、市民活動はより活発化し、週に1回地域新聞の別冊を新聞に折り込むほどに。現在本社屋は市民活動の拠点となっています。



事例2 フィンランド国立現代美術館

来訪目的が美術鑑賞目的ではなく、家族や友達と時間を過ごしたいというアンケート結果を元に、利用者目線で、友達同士で寝転んだり、USBから充電出来るスペースを設置。



事例3 ヘルシンキ中央図書館

2階部分に旧「ライブラリー10」が入る図書館。音楽専門図書館として楽譜を並べていましたが、利用者の声からCD、楽器や録音機、衣装を作るデジタルミシンまで使える場に。



写真を使った自己紹介

今回はワークショップの定番アイテムであるふせんや模造紙を使わず開催。参加者は3つのブースにわかれて、「Live Canvas」というシステムを使い、事前に用意してきたお気に入りの人・ものなどの写真をスマホからスクリーンに映し出し、自己紹介と共にエピソードを紹介しました。



Live Canvas とは

スマホやタブレットをつかって、簡単に写真を会場にいるみんなで共有できるシステム。

意見交換01 ～お気に入りの過ごし方～

それぞれのブースで3人1組のチームに分かれ、会場内に準備された様々なジャンルの本から、自分のお気に入りの過ごし方を探し出し、それぞれのスマホで写真を撮りました。その後、チームで相談しながら過ごし方の写真を5枚以内に厳選。焚火を囲む、みんなで食事を楽しむ、空を眺めるなど、屋外空間を活かした過ごし方が多く出ていました。一方で、隠れたり、一人でのんびりなど癒しを求める意見もありました。

STEP1 本から探す



STEP2 スマホで撮影する



STEP3 チーム内で共有し選ぶ



STEP4 ブース内で発表する



レッドブース

アートに関わる過ごし方が多く、発想が豊かでした。

オレンジブース

空を眺めたり、のんびりしたり。癒しが必要!?

ピンクブース

一人での過ごし方が多く、癒しなどにも共感。

意見交換02 ～新施設や広場のどこで過ごす?～

次に、それぞれのチームから出てきたお気に入りの過ごし方を、新施設や広場のどこで行いたいか意見交換しました。先ほど集めた写真をモバイルプリンターで印刷し1枚ずつ切り抜いた後、過ごし方の詳しい説明を書いたメモと一緒に平面図にマッピングしていきました。1階と7階の平面図には特にたくさんの写真が貼られ、様々な過ごし方の発想がひろがっていました。



1階平面図にはたくさんのお気に入りの過ごし方とコメントが

7階	屋上で焚き火に癒される / 屋上で昼寝 / 寝転がってリアルプラネタリウム / プラネタリウムで星や月を見て癒される / きれいな夜空を眺めたい / 木陰でリフレッシュ / 屋上に侵入して語らう / コワーキングスペースで個人の空間を作り出す / 隠し扉のようなパーテーション / お風呂もほしい / 食べたり、寝たり、本を読んだり自由な過ごし方 など
6階	散歩もできたらいいな / 静かなスペースがほしい / 階段に座ってそのまま読みふけりたい / 階段にも本がしまわれている、階段から直接本がとれる
5階	ハンモックに揺られながら本を読みたい / 好きなところで本が読みたい / 窓から外の景色を見ながら読書や勉強
4階	4階だけオープンカフェ / 舞台の休憩時間にちょっと軽食 / 恋話 / らくがきの壁
3階	アートなお皿が並ぶ
2階	テラスで焚き火 / キャンプやピクニックを屋内で / いろいろな年齢と友達になれる空間になるといいな / 作るを学ぶ / 風景を楽しみながら農家体験
1階	はじめましての人が共存できる空間 / 自由に弾けるピアノ / 発表会未満のゲリラライブ / 開放的な空間で0歳から大人まで音楽を楽しむ / 木と遊ぼう! / 茨木の野菜を売る、買う / 皆で料理をつくって外で食べよう / 友達と料理できたらいいな / 楽しく食育 / 緑に囲まれてコーヒーを飲みながらボーッとリラックス / 公演見ながらコーヒー / みんなの触れ合える動物スペース / こどもが好きなものをたくさん / いつでもアートに出会える など